



特集 **がん早期発見と緩和ケア**

みなさんご存じのように「悪性新生物・がん」は、日本人の死亡原因の第1位です。我々にとって決して稀有な疾病ではありません。しかし、「がん」ではないかという不安や「がん」と診断されたときの衝撃は大きなものです。早期発見のために、年に1回の住民健診や事業所検診を必ず受けることをお勧めします。また、「がん」という疾病に向き合えるよう、情報をもっておくといざというときに役に立ちます。今回は「がん」について、どのようなサポート体制が白杵市で行われているかについて、特集でおとどけします。

白杵市医師会
新会長 三好 信行



平成25年4月より一般社団法人へ移行し、6月25日に就任しました。今後もコスモス病院をはじめとして市民の皆さまに愛されるような医師会事業を運営して参りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

プロジェクトZ13 2013.8.4

多職種協働による在宅チーム医療を担う
人材育成事業 白杵市地域リーダー研修会

講師陣・白杵市の在宅医療の
現状について講義



行政・医療・福祉分野の専門職 94 名が白杵市の在宅医療の課題と解決策についてグループワークで真剣討議しました。



がんになっても 最期まで家で暮らせます

がん診療連携拠点病院で積極的治療を受けている方でも、在宅ではかかりつけ医を持って頂く必要があります。さらに、がん診療連携協力病院であるコスモス病院が継続的治療や緊急時の受け入れの役割を担います。3つの病院の医師が連携することで患者さんの安心・安全を高めます。



当院でもがん患者さんは年々増加傾向にあります。平成24年度がんで亡くなった方は73人(表1)、疾患の内訳は表2です。

表1:コスモス病院での死亡原因(平成24年度)

1.悪性新生物(癌)	73人
2.肺炎/COPD	42人
※COPD:慢性閉塞性肺疾患	
3.心疾患	33人
4.脳疾患	18人
5.敗血症	8人
6.老衰	7人
7.出血	3人
8.肝硬変	2人
8.自殺	2人
10.事故	1人

表2:悪性新生物(癌)の内訳(平成24年度)

1.胃癌	12人
1.肺癌	12人
3.大腸癌	10人
4.肝癌	8人
4.胆道癌	8人
6.乳癌	5人
6.肝癌	5人
8.悪性リンパ腫	3人
8.多発性骨髄腫	3人
10.食道癌	2人
11.その他	5人

中部保健所との連携

中部保健所とのがん在宅ケアチーム連絡会議で、がん患者さんの在宅療養支援の申し合わせが行われ、当院が以下の支援を行うことになりました。

- がん診療連携拠点病院からの入院の受け入れ
- かかりつけ医・地域の支援機関との調整
- 外来受診の調整 など

がん在宅ケアチーム連絡会議の様子▶



外来化学療法室

2012年7月、外来化学療法室を開設しました。化学療法をリラックスして行えるような雰囲気づくりを心がけています。外来スタッフ一同で患者さん、家族を支援できるように日々知識・技術の習得に励んでいます。今後は、パンフレット類の整備にも取り組んでいきたいと思ひます。

外来化学療法室での様子▶



緩和ケアパンフレットができました!

当院の緩和ケアチームでは、パンフレット「緩和ケアを知っていますか」を作成しました。これは、県の事業である臼津地域がん在宅医療連携促進事業の会議で、がん診療連携拠点病院・協力病院・かかりつけ医のつながりを早い段階でつくっておく必要があるということから、平成24年度在宅医療連携拠点事業(プロジェクトZ)の中で作成したものです。緩和ケアとは何か、どのような職種がサポートしているのか、緩和ケアに関する様々なことが書かれています。

市内開業医院・院内の外来・各病棟・薬局などに置いてありますので、ぜひ手に取ってご覧ください。



パンフレットの中のページ

がん体験者交流会のお知らせ

がん体験者交流会はがんにかかれた方、その家族、遺族を中心とした方々の交流の場です。がんについての不安やつらさを共有することで気持ちが楽になるきっかけになることもあります。話すのが苦手な方でも聞くだけでも構いません。

ぜひ参加されませんか。お待ちしております。

開催予定日：平成25年10月30日(水)
 14:00～
 平成26年2月26日(水)
 14:00～

開催場所：コスモス病院1階中会議室



がん体験者交流会ポスター



●禁煙外来 経験者の声

当院では禁煙外来を行っています。
そこで実際に禁煙外来を利用し、禁煙に成功した経験者に話を伺いました。

Q1. 禁煙をしようと思われたきっかけは何ですか？

今年、コスモス病院で始まった禁煙外来をきっかけに挑戦しました。

Q2. 禁煙外来通院後でも禁煙を継続出来ていますか？

はい！しかし正直なところ、お酒を飲んだ時は「吸いたいなあー」と思うこともあります。

Q3. 禁煙をしてよかったと思ったことは何ですか？

現在、少年野球の指導をしています。禁煙してからは息上がりがなく、体が軽く、少年達と楽しく野球が出来るようになりました。

Q4. これから禁煙される方へ一言!!

100%成功させなければならぬというものではありません。気軽に始めてみてはいかがでしょうか。コスモス病院は紹介が必要になるのでまずはかかりつけの先生にご相談ください。



〈禁煙外来担当者〉
左から新名洋明(臨床検査技師)、衛藤健志(医師)、岡村裕美(看護師)

特別講座 **市民公開講座**

ひとり家で死ねますか？

～みんなで支える在宅医療～

参加費 無料

- ・在宅ホスピスとは？
- ・トータルヘルスプランナーとは？
- ・実際どんな治療が行なわれているのか？

講師
小笠原内科院長 小笠原 文雄
(名古屋大学医学部学友会 理事長)

専門分野 ・循環器 ・内科一般 ・在宅医療

所属学会 ・日本循環器学会(専門医)
・日本内科学会(認定医)
・日本在宅医療学会

URL: <http://www.gem.or.jp/2016/09/20161130/>

日本在宅ホスピス協会の会費を無料、施設に在宅患者の方も無料で参加し、医師、看護師、薬剤師、ケアマネジャーが参加し、ご自身の在宅医療について学びます。

日程 平成26年 **11月30日(土)**
14:00～16:30 (開場 13:30)

会場 白杵中央公民館 大ホール

定員 **400名**(事前申込不要)

会場のご案内

お問い合わせ先 コスモス病院 地域医療推進課 TEL:0972-62-5883
〒875-0051 白杵市大字戸室長谷1131-1
TEL:0972-62-5599(代表) FAX:0972-62-3928
URL:<http://www.usukicosmos-med.or.jp>
*本会(日本在宅ホスピス協会)は、日本在宅医療の発展を目的として設立された公益法人です。

今後、在宅で生活を希望されている方は是非ご来場ください。

詳細が決まりましたら市報の折り込みでお知らせいたしますので、ご覧ください。



編集後記

コスモス病院の下、道路の出入り口が広くなりました。
217号線熊崎バイパスへ出にくかったり、入りにくかったりとお迷惑をお掛けしていましたが、左右とも出入りしやすいようレーンが設けられました。
これからもお車に気をつけて当院にお越しください。



白杵市医師会立
コスモス病院

〒875-0051 白杵市大字戸室長谷1131-1
TEL:0972-62-5599(代表) FAX:0972-62-3928
URL:<http://www.usukicosmos-med.or.jp>
地域医療福祉連携室(直通)
TEL:0972-62-5883 FAX:0972-62-8404



家族とともに住み慣れた土地で

2025年には団塊の世代700万人を加え、超高齢化時代のピークを迎えます。その準備のため、消費税が増税され、医療は「病院完結型」から「地域完結型」へと変わって行きます。医療と介護の連携、生活支援、介護予防、認知症対策が国の推進する「地域包括ケアシステム」の最重要課題として取り組まれます。

「病院から在宅へ」をキーワードに、住み慣れた地域で暮らすことが出来るようにと整備が急がれています。「病院におまかせ」ではなく、病気とうまくお付き合いしながら、家族そして地域とともに自立した生活を考えましょう。私たち自身のことです。一緒に考え、生きて行こうではありませんか。

私たちは、白杵市医師会立総合医療センターとして医療、介護、福祉の分野で皆様とともに歩んで行きたいと願っています。

市民の皆様への提案

「自分らしい生き方を選択しましょう」

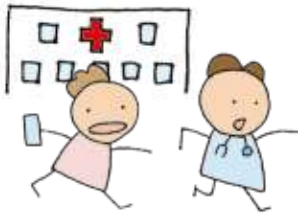
- 「住み慣れた場所」がいいですね
- 「人生の終え方」を考えましょう

☆医療と介護の連携と実践力の向上（研修・交流）

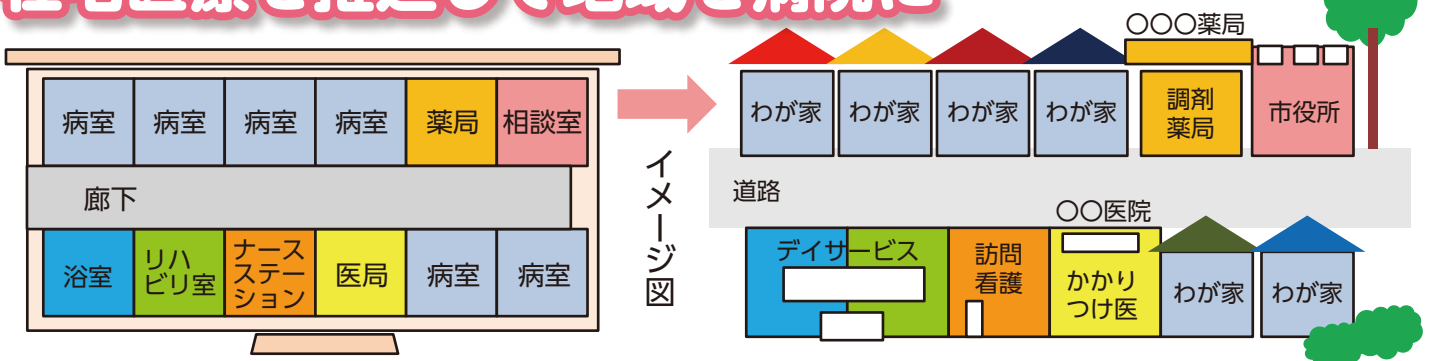
- それぞれの立場での連携力の向上
- 顔の見える関係の構築
- 認知症があっても暮らせる地域
- 地域で行われる研修の把握と活用

☆予防事業から看取りに至るまでの一環した概念の共有

- 地域包括ケアの視点
- 「うすき石仏ねっと」の利活用



在宅医療を推進して地域を病院に



臼杵市民の健康を守るコスモス病院の医師たち

コスモス病院にはたくさんの医師が勤務しています。市民の皆様の健康を守るため、日々業務に取り組んでいます。



院長 安田 正之



副院長 下田 勝広



副院長 舩友 一洋



整形外科部長 長井 卓志



内科部長 近藤 誠哉



外科部長 小川 聡



麻酔科部長 川野 誠



循環器内科部長 衛藤 健志



内視鏡部長 鈴木 浩輔



外科副部長 小森 陽子



内科副部長 光富 公彦



内科医 柳井 陽介

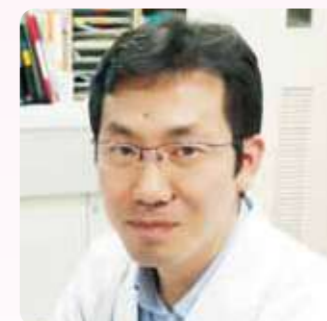
非常勤



呼吸器科医 濡木 真一



呼吸器科医 竹中 隆一



神経内科医 花岡 拓哉



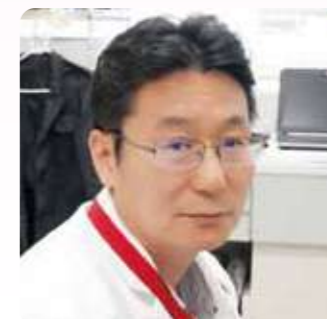
神経内科医 木村 成志



外科医 渡邊 扶喜子



脳外科医 阿部 竜也



脳外科医 上田 徹



整形外科医 平川 雅士



消化器科医 永松 秀康



消化器科医 上尾 哲也

関連事業部門



南山園施設長 児玉 研一



市民健康管理センター所長 阿南 章子

新しい医師が着任しました!



写真に★がついている医師が、今年度新たに着任した医師です。

大分県内外の様々な病院や施設から来ていただきました。

- 副院長 下田 勝広 大分東部病院より
- 外科部長 小川 聡 大分県立病院より
- 外科副部長 小森 陽子 大分大学医学部附属病院より
- 内科医 光富 公彦 大分大学医学部附属病院より
- 内科医 柳井 陽介 南海医療センターより
- 市民健康管理センター所長 阿南 章子 大南クリニックより
- 南山園施設長 児玉 研一 長崎県老人保健施設壱岐より

新たに着任した医師より市民の皆様へご挨拶申し上げます。

副院長 下田 勝広より

コスモス病院は、医療と福祉の連携がとれた病院だと感心しました。また、手術や内視鏡検査の症例も多い病院ですので、臼杵市民の皆様のお役に立てるよう頑張ります!

内科 柳井 陽介より

コスモス病院は、スタッフの仲が良く働きやすい病院だと感じました。循環器疾患で困ったことがあればご相談ください。皆様の力になれるよう頑張ります!





YES!コスモス 薬剤部からのお知らせ



薬剤師の主な業務

●調剤

医師からのお薬処方の内容を確認し薬剤の調剤を行った後、患者様へお薬をお渡しする一連の流れの業務のことを言います。

●製剤

当院ではエアージャワー付き無菌調製室（安全キャビネット・クリーンベンチ）を完備しており、外来・入院時の抗がん剤の調製を行っております。

●DI 業務（医薬品情報管理）

医薬品が安全且つ有効に使用されることを目的に厚生労働省やメーカーから届く医薬品情報を収集・整理・保管・病院職員への情報提供を行う業務です。

●薬剤管理指導業務

患者様への服薬に関する指導を行い記録や飲んでいるお薬の情報を収集し管理を行っています。

●医薬品管理

院内の薬剤の在庫管理を行っています。



調剤の様子

チーム医療に参加！

当院で毎月開催している糖尿病・心臓病の教室に薬剤師も講師として参加しています。

また病棟カンファレンスへの参加や当院の栄養サポートチーム、褥瘡チーム、感染対策チームの構成員として活動しており、他職種と検討した治療方針に合わせて患者様個人への薬剤指導を行っています。



医師との相談風景

編集後記

昨年11月30日に小笠原文雄先生をお招きし市民公開講座「ひとりで家で死ねますか？～みんなで支える在宅医療～」が行われました。

講演会後に「本当に家で死ねるの？」という声がありましたが、臼杵市にも実際にお家で最期を迎えた方はいらっしゃいます。病気になっても自分らしくどのように生活したいか考えておきたいですね。



電子カルテとの連動

当院のカルテは電子カルテといってパソコン等で管理を行っており、調剤及び薬剤管理指導業務に利用することで効率的な業務が行えています。

今後は本システムを用いた院外の調剤薬局との地域医療ネットワークの構築を目指しています。

業務拡張に伴い 薬剤師募集中

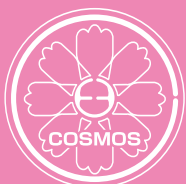
臼杵市医師会コスモス病院は、今後さらに必要とされる地域密着型の総合病院です。

見学は随時受付中
（必ずお電話にてご連絡ください）

- 職場環境**
城下町うすきで働いてみませんか。自然と歴史に囲まれた快適な職場環境。当院は地域密着病院。災害拠点病院指定あり。
- 薬学部長期実習受入施設です**
- 大分市から通勤圏内です**
- 福利厚生が充実しています**
- 週1回薬局と合同で新薬の勉強会をしています**

臼杵市医師会立 コスモス病院
〒875-0051 大分県臼杵市大字戸室長谷1131番1
TEL:0972-62-4418 FAX:0972-62-6045
担当：薬剤師 重藤 謙道

認定実務実習指導薬剤師を配置しています。
※薬剤部については詳細な資料がございますので、薬剤部までご連絡下さい。



臼杵市医師会立 コスモス病院

〒875-0051 臼杵市大字戸室長谷1131-1
TEL:0972-62-5599(代表) FAX:0972-62-3928
URL:<http://www.usukicosmos-med.or.jp>
地域医療福祉連携室(直通)
TEL:0972-62-5883 FAX:0972-62-8404



コスモスの風

白杵市医師会病院の今後の役割

医師会会長 植田 明德



白杵市医師会病院は昭和41年11月に海添250番地(現老人保健施設南山園)で開設されました。

その後、平成7年1月に医療の高度化への対応や地域での医療の完結をめざし、戸室の高台に「コスモス病院」として新築移転をしました。その後、増床や介護関連の充実をはかり、現在は病床数202床の「コスモス病院」を軸として、介護・検診・研修へも対応可能な医療センター的役割を担っています。

今年度、日本医師会の医療政策が発表され3つの方針が示されました。その中の一つの柱として、「地域医療を支える」があり、このため医師会立共同利用施設を軸とした「地域包括システム」づくりに取り組むことが示されました。これは来たるべき超高齢化社会を迎えるにあたり、在宅医療の推進と高齢者が住み慣れた地域でできるだけ自立した生活が行えるように、医療・介護・介護予防を支援していく体制が確保されることを目標とするとされています。このシステム作りの主役は白杵市では「コスモス病院」であり、医師会として取り組んでいきたいと思っています。

また、白杵市民約5,000人が手にしている「うすき石仏ねっと」カードは、「地域包括ケアシステム」をすすめるのになくしてはならないカードとなります。今後、歯科医師会・薬剤師会・介護施設と連携し、患者情報の共有も検討していきたいと思っています。その他災害拠点としての設備等沢山の取り組みまねばならない課題を抱えています。

市民の皆さまには今後の医師会の活動に理解をされ、あたたかく見守っていただくことをお願いします。

白杵の理想の地域医療・介護を目指して

副院長 下田 勝広



地域完結型医療・介護体制とは漢字ばかりで、少し硬く難しい言葉のようですが、「**わざわざ地域の外に出なくても誰もが自分が暮らしている地域で十分な医療・介護が受けられる体制**」のことです。地域で提供される医療・介護の質が高く皆さんが満足できるものであれば申し分ありませんね。このような体制は理想でありどんな年齢、どのような状態の患者さんでも安心して地域で暮らしていけます。現在は残念ながらコスモス病院で対応できない重症の患者さんや専門的な医療を必要とする患者さんもおられ、大分市の中核病院に搬送することがあります。今後コスモス病院は更に設備を充実させ、優秀な人材を確保することで地域の皆様の期待に応えていかねばならないと思っております。

さて、嬉しいことに今春からコスモス病院の外科医が3名から4名に増員され、しかも大分県立病院からは脂の乗り切った小川医師が外科部長として赴任、さらにスタッフすべてが大分大学医学部消化器外科に属し、卒後15年以上のベテランのチームとなりました。胃がん、大腸がんなどはもちろんのことほぼすべての内臓の手術に対応できるようになりました。また、内視鏡(胃カメラ、大腸カメラ)の検査も皆様の期待に十分沿えるレベルで受けただけになりました。

植田医師会会長、安田院長の下、医師会の先生方、行政をふくむ地域の医療・介護に携わる多くの方々と連携、協力して白杵の理想とする医療・介護体制が構築できればとの思いでコスモス病院の全職員が頑張っております。今後とも宜しくお願いいたします。

うすき石仏ねっと

始まります! 「おくすり手帳」の電子化

「うすき石仏ねっと」とは?

「うすき石仏ねっと」とは、臼杵市医師会が運営する臼杵市内の医療・介護機関を結ぶIT情報ネットワークシステムです。市民のみなさんや患者さんの病気・お薬の内容・検査結果などの情報を共有し、協力し合うことで、無駄の少ない安全で質の高い医療・介護サービスを提供することを目指しています。

平成24年4月より運用を開始し、平成26年9月現在では、病院・医科診療所・訪問看護ステーションが結ばれています。10月1日より新たに調剤薬局、介護施設(介護老人保健施設・介護老人福祉施設)が新たに連携に加わることになりました。

「うすき石仏ねっと」を利用するには?

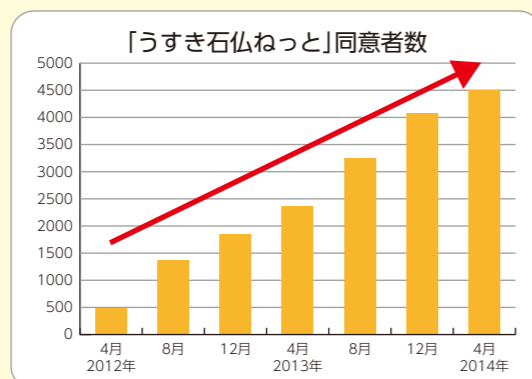
「うすき石仏ねっと」をご利用いただくためには、「石仏カード」を取得していただく必要があります。利用規約をご理解いただいた上で、臼杵市内の参加機関において申し込んでください。

「石仏カード」を提示していただくことで、様々な機関にあるデータを共有できるようになります。「石仏カード」には医療情報は入っていません。

情報を共有するための鍵の役割をします。今までは、「石仏カード」が提示された時のみ情報共有が可能でしたが、10月1日からは提示後60日間は「石仏カード」がなくても情報共有が可能となります。

同意者数

「うすき石仏ねっと」同意者数は平成26年8月4日時点で5,214人です。臼杵市の人口の1割以上の方が「石仏カード」をお持ちです。登録料は無料となっていますので、まだ登録していない方はかかりつけ医へお申し出ください。



10月1日から始まる新たな機能

「おくすり手帳の電子化」「糖尿病連携手帳の電子化」「介護施設連携」「既往歴・病名共有システム」の4つの機能が、10月1日から新たに加わります。おくすり手帳の情報がITを用いて共有されることで、お薬の重複が避けられ、注意が必要な飲み合わせもチェックされることが期待されます。

糖尿病手帳の電子化や健診データの共有は疾患の早期治療や重症化予防に繋がり、これにより健康寿命が延長することが期待されます。介護施設との連携は医療・介護IT連携の始まりです。現在我々臼杵市医師会は、行政と共同し、在宅医療連携・地域包括ケアシステムの確立に努めています。「うすき石仏ねっと」は地域包括ケアには欠かせないシステムになると考えます。

今後の取り組み

今年度中に歯科診療所が連携に加わります。また、健康診断データの共有も開始されます。さらに、救急車要請時など緊急時には医療機関や消防署通信指令室で、「石仏カード」の提示がなくても情報を開覧することが可能となる予定です。

これにより、救急救命士は現場到着前に傷病者の既往歴や内服薬などの情報を知ることが出来るようになります。「救われる命」が一人でも増えることが期待されます。

来年度には居宅介護支援事業所が連携に加わる予定です。スマートメディアの活用により、在宅と医療を結び付けるツールとして発展が期待されています。また、災害時などに必要な薬剤・災害時要援護者・歯科口控所見などの情報を利活用できる仕組みも必要と考え、今後、行政とも協働し、市民のみなさんや患者さんの役に立つシステムへと発展させていきたいと考えます。

さらに詳しく知りたい方は「うすき石仏ねっと」のホームページをご覧ください。





YES!コスモス 地域包括ケア病棟についてのご案内



地域包括ケア病棟って何？

急性期治療が終了した患者さんが、そのまま在宅や施設へ退院するには不安のある場合に、診療やリハビリを継続し、在宅もしくは施設への退院をスムーズに行うための「在宅復帰支援の病棟」のことを言います。

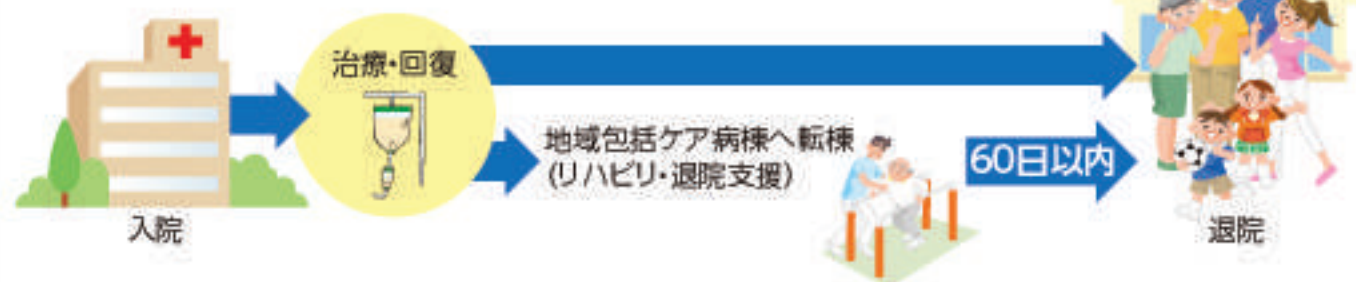
当院では主治医が判断し、患者さん・ご家族の方へ提案させて頂いた後、地域包括ケア病棟の西3階病棟へ転棟して継続入院となります。

入院費はたくさんかかるの？

地域包括ケア病棟の入院費は定額でリハビリテーション、投薬、注射、処置、検査、画像診断の費用が含まれます。なお、75歳以上の患者様は月の医療費の負担上限額が定められていますので、一般病棟の場合と負担上限は変わりません。ご不明な点は1階の会計窓口へお尋ねください。

入院期間はどのくらい？

西3階病棟へ移動後、**60日以内の退院**が原則です。また、在宅等の準備が整った患者様は60日を要することなく退院となります。



臼杵市認知症市民フォーラムのお知らせ

- 平成26年10月12日(日)
13:00~15:30(開場:12:00)
- 場所:臼杵市民会館 大ホール
- 定員:1200名 (入場無料)

最近ニュースやテレビで認知症の特集を見かけます。コスモス病院でも認知症の方の入院が年々増えてきています。認知症は誰もがなりうる病気で、今後ますます患者数が増えてくるそうです。早期発見や予防についてなど、私たちも市民の方と一緒に勉強していきたいと思えます。



臼杵市医師会立 コスモス病院

〒875-0051 臼杵市大字戸室長谷1131-1
TEL:0972-62-5599(代表) FAX:0972-62-3928
URL:<http://www.usukicosmos-med.or.jp>
地域医療福祉連携室(直通)
TEL:0972-62-5883 FAX:0972-62-8404

YES!コスモス 看護部ではこんな取り組みをしています!

●在宅療養移行支援チームについてご紹介!

退院される患者様の中には、自宅や住み慣れた施設等でも何らかの医療や介護が必要な方がたくさんいらっしゃいます。そこで当院では在宅療養移行支援チームを結成し、自宅や住み慣れた施設で医療や介護が継続でき、安心して療養していただけるよう活動しています。

今回はその活動の一つ「在宅療養パンフレット」の紹介をします。

このパンフレットはその処置やケアがどうしても必要なのか、体はどうなっているのか、またケアの手順などを図やイラストなどを多く用い、分かりやすく説明したものです。

在宅や施設などへの退院までに、このパンフレットを使いながら担当看護師と一緒にケアを体験していただき、安心して退院していただけるようお手伝いさせていただきたいと考えています。

胃ろうケアパンフレット



練習チェック表

一緒に確認しましょうね

◎一人できる ○助言でできる
△一緒にできる ▲見学した

チェック項目	1回目	2回目	3回目
1. 手をあらう			
2. 栄養剤を準備できる			
3. 薬を準備できる			
4. 体を起こす			
5. 胃の中の空気や栄養剤の確認ができる			
6. 薬を注入できる			
7. カテーテルを接続できる			
8. 速度を調整できる			
9. 後片付けができる			
10. カテーテルのケアができる こよりくるくる回す			

看護師と一緒にチェックをしながら練習をしていきます。

その他にも…以下のパンフレットを作っています!

1. 在宅中心静脈栄養療法パンフレット
2. 人工肛門ケアパンフレット
3. 吸引パンフレット
4. マスク式人工呼吸パンフレット
5. 生活ケア (おむつ交換など) パンフレット
6. 尿道留置カテーテルパンフレット
7. 褥瘡 (床ずれ) ケアパンフレット
8. 嚥下障害のケアパンフレット



※パンフレットについては病棟の看護師へお問い合わせください。

編集後記

2月に医療安全研修会が開催されました。今回は下田院長のお話の後に初めての試みとして実際に起きた事例の寸劇をしました。劇では看護師が中心となって取り組み、日ごろの病棟での様子が分かりやすく実演されました。看護部が行っている活動はたくさんあるので、また少しずつご紹介していきたいと思っております。



コスモスの風



院長 下田 勝 広

4月1日より 下田勝広院長が就任いたしました

安田前院長の後を受け院長に就任いたしました。私の理念は「笑顔で協働」です。コスモス病院が臼杵の医療・介護を支える基幹病院として地域の皆様の期待に十分こたえられるように医師会の先生方、多職種の方々、そして地域を支える皆様方と笑顔で連携、協働していきたいと思っております。趣味は、絵を描くこと、山歩き、魚釣りです。しっかり頑張りますので、今後とも何卒よろしくお願いいたします。

メディカルコントロールという言葉を知っていますか? — 救急救命士の処置拡大について —

一般の救急隊員と救急救命士の最も違うところは救急救命士には「特定行為」が許されていることです。「特定行為」とは医師の具体的な指示を得た上で救急救命士のみが行える救急救命処置のことを言います。現場では無線や携帯電話を活用して直接医師とオンラインで接続し指示を得て行われます。これをメディカルコントロールと言います。コスモス病院では2005年より、救急隊から直接医師に接続されるホットラインを開設し、メディカルコントロールを行ってまいりました。2014年救急救命士法施行規則が改正され、救急救命士による「特定行為」の範囲が拡大されました。臼杵市消防本部は、今後現場出動する全ての救急救命士が、必要な処置を行うことができるように計画しています。コスモス病院は、救急救命士のスキルアップや技能維持に積極的に協力するとともに、行われた処置が適切であったかの検証も大学病院の救急救命に携わる医師の方々の協力を得ながら行ってまいりました。今後も引き続き行っていきます。

コスモス病院は臼杵市消防本部と力を合わせて、臼杵市民の皆様の“もしもの時”の救命率の向上を図っていく所存です。

現在実施可能な特定行為

1. 心肺停止時の乳酸リンゲル液を用いた静脈路確保のための輸液
2. 食道閉鎖式エアウェイ、ラリングアルマスクまたは気管内チューブによる気道確保
3. アドレナリンを用いた薬剤の投与

拡大された処置の内容

1. 心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保及び輸液
2. 血糖測定並びに低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与



副院長 舩 友 一 洋



臼杵市医師会立
コスモス病院

〒875-0051 臼杵市大字戸室長谷1131-1
TEL:0972-62-5599(代表) FAX:0972-62-3928
URL:http://www.usukicosmos-med.or.jp
地域医療福祉連携室(直通)
TEL:0972-62-5883 FAX:0972-62-8404

臼杵市の救急 体制について

臼杵市医師会の24時間体制、救急車の受け入れ

	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日		土曜日		日曜日・祝日	
	内科	外科	内科	外科	内科	外科	内科	外科	内科	外科	内科	外科	内科	外科
8時30分														
14時														
18時														
22時														
8時30分														

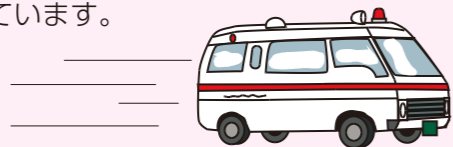
- 〈初期診療〉
- …平日昼間:かかりつけ医の先生
 - …平日18時から22時:当番医の先生
 - …土曜日14時から22時および日・祝日8時30分から22時:コスモス病院
 - …22時以降:コスモス病院が救急車受け入れ



臼杵地域に出動する救急車のうち約8割がコスモス病院に来ています。医師数に限りがある臼杵市の医療体制では、市民の皆様が希望される通りの初期診療を提供することは困難です。しかし、限られた医師数の中で、“もしもの時”に対する対応が出来るように努力していきたいと考えています。

ホットライン

2005年より救急隊とコスモス病院の救急担当医師の間でホットラインが開通しています。**反応がない！意識がない！出血がひどい！**など、命にかかわるような病態の場合、救急隊からの要請を直接、**24時間365日**コスモス病院は受け入れています。また、訪問看護利用中の方が急変した場合も受け入れています。



〈ホットライン対象者〉

- ①心肺停止状態
- ②意識レベル低下
(呼びかけに目を開けない状態)
- ③命にかかわる外傷
- ④アナフィラキシーショック
- ⑤くも膜下出血
- ⑥メディカルコントロール
- ⑦DMAT出動要請

tPA バイパス

tPAバイパスとは、脳卒中が疑われtPA（血栓溶解剤）が適応になる可能性が高い傷病者を、臼杵市内の病院に寄ることなく救急隊の判断で直接大分市の病院に搬送するシステムです。大分市の病院で急性期の治療が一段落したら、社会復帰を目指してコスモス病院でリハビリをしていただくことができます。ドクターヘリ要請やtPAバイパスが適切に行われていることの検証は、大分大学医学部附属病院救急救命センター医師およびコスモス病院医師により定期的に行われています。



検証会の様子

DMAT (ディーマット: 災害医療派遣チーム)



訓練の様子

DMATは、救出に時間を要する傷病者や複数傷病者などが発生し、消防署からの出動要請があった時に現場に駆けつけます。要請から5分以内に出動できるよう日頃から準備をしています。現在コスモス病院の隊員は、医師2名、看護師5名、事務調整員2名です。

また、いざという時のために、毎年臼杵消防署と共同し訓練をしています。2008年より開始し今年で8回目を迎えます。訓練はコスモスDMATだけではなく、大分大学DMATや日赤DMATなど他のDMATも参加し行われています。

ドクターヘリ

ドクターヘリとは、患者に救命医療を行うことのできる救急専用ヘリコプターのことです。大分大学医学部附属病院救急救命センターにドクターヘリの基地があります。2014年7月臼杵消防署にヘリポートとして利用できる多目的広場が出来てからは、救急隊の判断により直接ドクターヘリが要請される事例も増えてきました。

また、コスモス病院から大分市の病院への患者搬送にも利用され、臼杵市は竹田市に次いで人口当たりのドクターヘリ利用率が高い地域となっています。



大分県ドクターヘリ連携訓練にて

うすき石仏ねっと

今年中には、臼杵消防署の通信指令室に“うすき石仏ねっと”の端末が配置される予定です。傷病者の病名、飲んでいる薬、検査結果などを知った上で救急救命士が現場に駆けつけることが出来るようになります。救命率や社会復帰率が向上することが期待されます。

皆さん、ぜひ“うすき石仏ねっと”に加入されてください。大分の病院で処方された薬も、臼杵市内の調剤薬局でもらうようにしましょう。救急時飲んでる薬がわかることが大切です。



YES!コスモス 地域ケア会議についてご紹介!

臼杵市では平成26年4月より「地域ケア会議」を実施しています。

この会議は、介護保険を利用する際のサービスの質を高め、同時に臼杵市における地域の課題を掘り下げていくことが目的です。

臼杵市に暮らす高齢者の方々の生活を支えられるよう、運動・口腔・栄養など専門職種が参加し、ケアマネジャーやサービス事業者の方々と生活上の課題を解決できるような検討を重ねています。

介護保険の理念は「自立支援」ですが、全て自分でできるようになることを目指すのではなく、「役割や活躍の場があり、できることを担い、いきいきと暮らす」ことが介護予防であり、自立支援となります。



ケア会議の様子

11月14日は『世界糖尿病デー』です

世界糖尿病デーとは

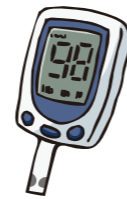
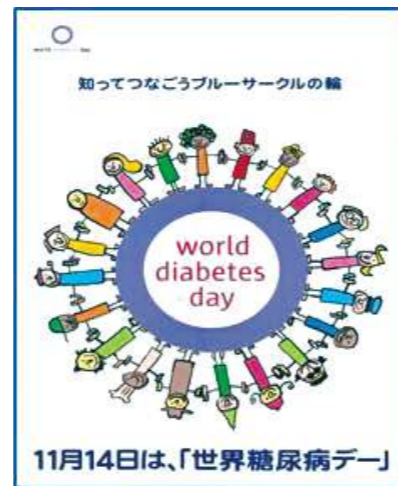
現在、糖尿病患者数は 全世界で急速に増えており、2014年には世界の12人に1人が糖尿病で、7秒に1人が糖尿病が原因で亡くなっていると言われていいます。このように世界中で糖尿病が問題となっていることから、糖尿病に対する社会的な関心を高めようという目的で、11月14日に世界中の様々な場所で糖尿病の予防・治療・療養の方法を伝えるイベントが行われています。

世界糖尿病デーにブルーライトアップ

11月14日には、世界中で建造物などが世界糖尿病デーのシンボルカラーであるブルーにライトアップされます。大分県では別府タワーが11月14日(土)の日没から00:00までの時間ライトアップされる予定になっています。

糖尿病はコントロールできる病気

糖尿病は正しく治療すれば、合併症（網膜症・神経障害・腎症、脳卒中・心筋梗塞等）を起こすことなく、健康な方と変わらない生活を送れ、寿命を全うすることができます。しかし、世界の糖尿病患者のうち2人に1人しか糖尿病と診断されていないといわれています（糖尿病は自覚症状が乏しい病気です）。自分は糖尿病ではないと決めつけず、1年に1回は糖尿病の検査、血糖測定を行うようにしましょう。



新しい医師が着任しました!

7月よりコスモス病院に赴任しました**田籠泰明**（たごもり ひろあき）です。専門は整形外科で特に外傷、スポーツ障害を中心に研鑽を積んできました。

臼杵の皆様が元気に暮らせるために少しでも力になればと思っています。痛みでお困りのことがありましたら気軽に相談して下さい。力の限り頑張っていきますので、何卒よろしくお願い致します。



コスモス病院の役割とは?

臼杵市医師会立コスモス病院 院長
下田 勝広

コスモス病院の地域における役割は主に次の3つです。

①地域中核病院です。

入院治療や手術、リハビリなどを必要とする患者さんに対して急性期医療を提供できる地域で唯一の医療機関です（このため通常はかかりつけ医を受診していただき、医師の判断の下に紹介受診していただくか、救急車での搬送が必要な重症患者さんが対象となります）。

<平成26年度の診療実績>

外来患者延べ数：30,690人、入院患者延べ数：59,528人、救急車受け入れ台数：1,107台、
外科手術（胃癌、大腸癌、胆石、ソケイヘルニア、急性虫垂炎など）：177例、
整形外科手術：162例、内視鏡（胃カメラ、大腸カメラ）：2,692例。



②災害拠点病院です。

地震、津波、大きな事故、火災時の負傷者に対して**災害救急医療**を行います。トレーニングを受けたDMAT（災害派遣医療チーム）という災害急性期に活動できる機動力を持った医療チームが院内にあります。

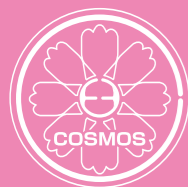
舩友副院長の下、8名の隊員が活動しています。
また、臼杵消防署の救急救命士と連携し、大分市内の大学病院等の高度救急医療機関にヘリコプター搬送も行っています。

③へき地医療拠点病院です。

少子高齢化にともない**過疎地となった地域**でも満足できる医療を提供できるように支援します。また、将来地域医療に携わる可能性のある高校生や医大生の地域医療研修を毎年8月に実施しています。今年は高校3年生8名、医大生3名の研修を行いました。さらに大分大学医学部6年生の中で外科志望の6名の学生さんの研修も行いました。

行政や大分大学とも今まで以上に連携を深め、皆様に愛され、信頼される病院を目指して行きたいと思っています。今後とも何卒ご理解、ご支援の程お願い申し上げます。

折に触れ皆様の率直なご意見、ご要望をお聞かせ願えればと思っております。



臼杵市医師会立
コスモス病院

〒875-0051 臼杵市大字戸室長谷1131-1
TEL:0972-62-5599(代表) FAX:0972-62-3928
URL:http://www.usukicosmos-med.or.jp
地域医療福祉連携室(直通)
TEL:0972-62-5883 FAX:0972-62-8404

在宅での医療・生活を支えるスタッフ

平成27年9月、コスモス病院の敷地内に新しい建物が駐車場に隣接した建物の中では、白杵の皆様の在宅で今回は、そのスタッフがどのような仕事をしているの

建ちました。
の医療や介護を支えるスタッフが働いています。
か、ご紹介したいと思います。

訪問看護ステーションコスモス

病気や障害を持った人が住み慣れた地域で安心してその人らしく療養生活が送れるように支援しています。具体的には、訪問看護ステーションから、看護師や理学療法士等が生活の場へ訪問し、医療的処置や自立への支援、アドバイス等を行います。

医師や関係機関と連携をとり、難病や癌など医療ニーズの高い方、呼吸器疾患、認知症、ターミナルケア等で在宅の看取りまで、積極的に対応しています。在宅でのリハビリも充実しています。

笑顔と真心をこめた看護の提供を、24時間365日連絡が取れる体制で対応しています。ご利用を希望される方は、かかりつけ医師やケアマネジャーにご相談ください。



コスモス介護支援センター

介護を必要とされる方が、自宅で適切なサービスを利用できるように、ケアマネジャーが身体の状態や生活環境を確認しながら、ご本人・ご家族の希望等に沿ったケアプランを作成したり、様々な介護サービスの連絡・調整などを行います。また、ご本人やご家族の代わりに、要介護認定を受けるための申請手続きや更新認定の申請手続きも行っています。

私たちは、高齢者やそのご家族の皆さんが住み慣れた地域で安心して暮らせることを目指しています。介護保険についての相談や生活する中で不安な点等ありましたら、いつでもご相談ください。10名のケアマネジャーが皆さんをサポートさせていただきます。



コスモスケアステーション

ご利用者の自宅を訪問して、食事・排せつ・入浴などの介助を通じ、利用者の在宅生活を支えるサービスを提供しています。私たちは介護の質を高めるために多くの研修も行っています。

オムツ交換などでは褥瘡(床ずれ)の早期発見で重度化を防ぎ、服薬確認・口腔ケアで体調も安定された利用者もいます。また、ケアマネジャーや多職種と連携を取りながら、ご利用者の住み慣れた地域での暮らしを応援します。

私達は介護保険法の基本理念である『自立支援』に基づき『自分らしい暮らしを応援します。』を合言葉にサービス提供を致しております。介護に不安を感じる事があればご相談ください。



情報管理の強化について

訪問看護ステーションの改築と同時に新たにカルテや石仏ねっとのデータ貯蔵庫(サーバー室)の改築工事も行っています。概要は、セキュリティ対策(入退室管理システム)、地震対策(サーバーラックの免震化)、空調設備の充実(2台交互運転に追加して代替機の導入)で、完成すれば病院内電子カルテシステムをはじめとする情報システムと「石仏ねっと」システムのより安定した運用が可能となり、災害に強く、情報管理が万全なシステム運用を行う事が可能となります。